

手向山八幡宮

奈良市雑司町434

東大寺建立に際し、宇佐八幡を守護神として創建された。元禄4年(1691)、本殿再建。宝庫(重要文化財)は東大寺から移築された校倉造の建築物。社宝に唐鞍(国宝)、舞楽面(重要文化財)などがある。



公演番号 0602-2 0602-3

十輪院

奈良市十輪院町27

もとは元興寺の別院であったと伝えられ、弘法大師の書の師といわれる朝野魚養が元正天皇の旧宮を拝領して開いたと伝えられる。中世以降は地藏信仰の場として知られた。本堂(国宝)内に祀られた花崗岩の石仏龕(石の厨子)(重要文化財)は、不動明王、仁王、七星九曜などが浮き彫りにされており、わが国の石造美術の中でも珍しいものとされている。龕とは仏像を納める厨子のこと。



公演番号 0531-1 0531-2

瑜伽神社

奈良市高畑町1059

奈良ホテルの東に位置し、古くは飛鳥京の鎮守社であったものが、平城京遷都とともに現在の地に移り、中世に至り興福寺大乗院の守護神として篤く崇敬された。一の鳥居から急な石段を昇ると鮮やかな朱の拝殿に迎えられ、振り返れば遠く大和三山を今も望める。春は桜、秋には紅葉の美しいことから万葉集にも「平城(なら)の飛鳥」と詠われている故地である。



公演番号 0530-3 0530-4

不空院

奈良市高畑福井町1365

春日山・不空院はその名が示す通り、春日山を背に不空絹索観音を本尊とする真言律宗の古刹。春日の杜から高円山へと続く門前の小道には、今も古き奈良の風情が残ります。ここに足跡を残された弘法大師(空海)にちなみ「福井之大師」とも呼ばれ、「大乗院寺社雑事記」には、ここは鑑真和上の住居があった旧跡である上に、南円堂の雛形として建てられたと記されている。



公演番号 0530-5 0530-6

大安寺

奈良市大安寺2-18-1

聖徳太子によって平群に建立された熊凝精舎が草創。やがて飛鳥の地で百済大寺、高市大寺、大官大寺と、名と所を変え、国の筆頭寺院として栄える。平城遷都に伴って現在地に移され、大安寺と号した。壮大な伽藍には887名もの学侶が住して、仏教大学の観を呈し、日本の祇園精舎と讃えられて、我が国仏教の源流をなすといわれた。中世以降、災禍などで伽藍消失したが、古来の息吹を伝える9体の天平仏像が今に残り、法灯が護られている。今日は瘧封じの寺として知られ、人々の篤い信仰の輪が広がっている。また、奈良日独協会の本部が置かれている。



公演番号 0515-1 0515-2 0520-2 0520-3

西大寺

奈良市西大寺芝町1-1-5

天平神護元(765)年、東の東大寺に対する西の大寺として、称徳天皇の勅願により建立。創建当時は南都七大寺の一つとして東大寺と並ぶ規模を誇ったものの、平安遷都や度重なる火災によって衰退した。鎌倉時代に叡尊によって密教と戒律の教えを兼学併修する「真言律」の根本道場として復興。しかし、室町時代の戦乱で再び多くの建物を失うことになる。現在の建物はすべて江戸時代以降の建築。本堂前の基壇は東塔跡のもの。十二天画像(国宝)をはじめ、重要文化財に指定されている彫刻などが数多く残されている。大きな茶碗でお茶を回し飲みすることで知られる大茶盛式は、1239年、叡尊が修正会のおと鎮守八幡宮に茶を献じたことが始まりといわれる。



公演番号 0529-1

海龍王寺

奈良市法華寺町897

海龍王寺は天平3(731)年、遣唐使として中国に渡っていた初代住持の玄昉が、一切経と新しい仏法を無事に我が国にもたらすことを願い、光明皇后によって創建されたとも伝わっており、お寺の場所が平城宮の東北の隅に当たることから「隅寺あるいは角寺」とも呼ばれている。玄昉が唐より帰国の途中、東シナ海で暴風雨に襲われた際に、海龍王経を唱えたところ、かろうじて種子島に漂着し、奈良の都へ無事に帰ることが出来たことがきっかけで遣唐使の無事を祈願する寺院となり、現在も旅行・留学に赴く方々の信仰を集めている。境内には創建当初からの建物である、西金堂(重要文化財)と、堂内に安置されている高さ4mの五重小塔(国宝)が残り、特に五重小塔は天平時代に作られた塔の中で、唯一現存している五重塔として価値が高く、西金堂とともに天平時代の建築様式を現代に伝える貴重な建物となっている。



公演番号 0531-3

喜光寺

奈良市菅原町508

養老5(721)年に行基によって創建された。本堂(重要文化財)は東大寺大仏殿の雛型として行基が試作したといわれ、「試みの大仏殿」と呼ばれている。本堂は、室町時代に焼失し、創建当初の旧礎の上に現在の本堂(重要文化財)が再建された。天平21(749)年に行基はこの寺で亡くなり、遺骸は生駒の竹林寺に葬られた。喜光寺は、蓮の名所として知られ、夏期(6月上旬～8月下旬)には、境内250鉢の蓮が大輪の花を咲かせる。



公演番号 0516-3 0516-4

靈山寺

奈良市中町3879

天平8(736)年、聖武天皇の勅命で、行基が建立し、バラモン僧菩提僊那が地相がインド靈鷲山に似ているところから靈山寺と名付けたといわれる古寺。鎌倉中期(1283)に改築された本堂(国宝)には藤原時代作の薬師三尊像(重要文化財)など、優れた建築や彫刻を所蔵している。また、世界平和を願い、輪廻転生をテーマに昭和32年に開園した1200坪のバラ園には春と秋に約200種2,000株のバラが咲き誇る。



公演番号 0515-5

般若寺

奈良市般若寺町 221

創建は飛鳥時代と伝わる古刹。寺伝によると629年高句麗の僧慧灌が招かれた地に寺を建て文殊菩薩像を安置したのに始まり、その後天平7(735)年、聖武天皇の時、平城京の鬼門鎮護のため堂塔を造営されたと伝えられている。平安時代に平重衡の焼き討ちにあい衰退したが、鎌倉時代に再建された。宋から招かれた石工・伊行末の傑作として有名な鎌倉時代の十三重石塔が境内の中心に立つ。国宝に指定されている楼門は鎌倉時代の建立。また、本堂には本尊の文殊菩薩(重要文化財)が安置されている。春のヤマブキ、梅雨時の初夏コスモスとアジサイ、秋のコスモスと境内の石仏を折々の花々が彩る。



公演番号 0517-1 0517-2

帯解寺

奈良市今市町 734

かつては弘法大師の師である勤操大徳の開基巖瀬千坊の一院で豊松庵とよばれた。平安時代、文徳天皇の御妃染殿皇后(藤原明子)が帯解子安地藏菩薩に祈願し、清和天皇を無事安産された。それをお喜びになった文徳天皇は伽藍を建立、天安2(858)年、寺号を帯解寺に改められた。現在も安産・求子(子授け)祈願の寺として皇室にも岩田帯を献納し、全国から信仰を集めている。また、その昔小野小町が本尊地藏菩薩に病気平癒や息災を祈願して度々参拝された。



公演番号 0529-2 0529-3

矢田寺

大和郡山市矢田町 3506

矢田寺(金剛山寺)は開基当時、僧坊48を数える大寺であった。現在は、大門坊・南僧坊・北僧坊そして念佛院の4つの僧坊が残っている。また別称をあげさい寺といい、6月から7月のシーズンを迎えると境内には約60種10,000株のアジサイの花が咲き乱れる。平安時代初期に本尊となった地藏菩薩は「矢田のお地藏さん」として有名。広い境内には本堂、閻魔堂などが立ち並び、本尊の木造地藏菩薩立像をはじめ、数多くの重要文化財が収蔵されている。境内各所に石像が祀られており、中でも自家製の味噌を口元に塗ると味が良くなるとされる「味噌なめ地藏」(鎌倉時代後期)は名高い。



公演番号 0516-1 0516-2

長弓寺薬師院

生駒市上町 4446

聖武天皇が狩りの際、息子の流れ矢に当たって死んだ鳥見郷の豪族真弓長弓を悼み、神亀5(728)年、行基に命じて建立させたと伝わる。入母屋造檜皮葺きの本堂(国宝)は、和様に天竺様、唐様を加えた優美な建築で、弘安2(1279)年に再建された。室内には厨子(重要文化財)に納められた一木造の十一面観音立像(重要文化財)が安置されている。長弓寺には3ヶ寺の塔頭があり、その中の一つ薬師院にて開催。



公演番号 0601-1 0601-2

宝山寺

生駒市門前町 1-1

もともとは役行者や空海が修験の場として開いたこの寺を、延宝6(1678)年に宝山湛海が中興し歓喜天を祀った。般若窟と呼ばれる大岩壁を背景に本堂、聖天堂、多宝堂、絵馬堂などが立ち並び。色ガラスのはまった獅子閣(重要文化財)は明治17(1884)年に迎賓館として建てられた洋風建築で、訪れる人の目をひく。現世のあらゆる願いを叶えてくれるとされ、生駒の聖天さまと呼ばれ親しまれている。中でも商売繁盛の現世利益や禁酒といった断ちものを祈願する庶民信仰の寺として知られる。



公演番号 0525-1 0525-2

信貴山朝護孫子寺

生駒郡平群町信貴山 2280-1

用明天皇2(587)年、聖徳太子によって創建された。平安時代以降は武人の信仰を集めた寺である。標高437mの信貴山中腹に位置し、福德開運の毘沙門として今なお庶民信仰が篤い。信貴山の起こりは、太子が寅の年の寅の日、寅の刻に現れた毘沙門天を感じ祀ったことという言い伝えによるもので、境内の至る所で張り子のトラを見ることができる。トラはこの寺の守護神でシンボルとなっている。山腹にある広い境内には本堂の他、護摩堂、三重塔など数十棟の堂宇が立ち並び、本堂から見渡す奈良盆地の眺めは絶景。寺宇の信貴山縁起絵巻(国宝)は霊宝館で10月末から2週間のみ公開される。楠木正成の鎧・兜などの寺宝は霊宝館で常時みることができる。



公演番号 0530-1 0530-2

石上神宮

天理市布留町 384

大和屈指の古社。古代豪族物部氏の総氏神で、大和朝廷の武器庫だったとの記録もある。御祭神の布都御魂大神は神剣師霊に宿られる霊威。神武天皇がこの神剣によって、東征の際に悩まされた邪神を平らげたと伝えられている。かつては本殿をもたず、地中深く埋められた神剣と神宝を祀っていた。明治初期になって拝殿奥の禁足地の発掘を行ったところ、神剣師霊をはじめ数々の大刀や鏡、玉類などが出土した。国宝の拝殿は神社建築としては最古のもので第72代白河天皇の御代に宮中から神嘉殿を移築したものと伝えられている。楼門前石段上に建つ摂社出雲建雄神社の拝殿も国宝である。



公演番号 0518-2

長岳寺

天理市柳本町 508

天長元(824)年、淳和天皇の勅願により弘法大師が大和神社の神宮寺として創建した古刹。盛時には塔中四十八ヶ坊、衆徒三百余名を数えたという。重要文化財は仏像5体、建造物4棟があり、鐘門は創建当初の唯一の建物であり日本最古。上層に鐘を吊った遺構があり鐘樓門ともいう。本尊は上品上生の定印を結ぶ阿弥陀如来と半伽藍座像の両脇侍、慈悲の分身・観世音菩薩と知恵の分身・勢至菩薩の三尊。阿弥陀三尊像は玉眼を使った仏像としては日本最古のもので、藤原時代末期の作。毎年、10月23日から11月30日秋に開帳される大地獄絵図は狩野山楽の作。横11m、縦4mでその法量の大きさ、図の精緻さは他に例を見ない。



公演番号 0518-3

大神神社

桜井市三輪 1422

三輪明神ともいわれ、日本で最古の神社とされている。この神社に本殿がないのは、後方にそびえる三輪山を御神体としているため、古代の信仰形態を現在に伝えている。寛文4(1664)年、徳川家綱によって再建された拝殿(重要文化財)奥には、三輪鳥居とも呼ばれている三ツ鳥居(重要文化財)があり、古来より、この鳥居を通して御神体の三輪山が拝まれている。祭神は大物主大神。大和七福神(信貴山朝護孫子寺、久米寺、長谷寺、おふさ観音、談山神社、當麻寺中之坊、安倍文殊院)に大神神社が加わり、大和七福八宝の会を発足。



公演番号 0518-1

長谷寺

桜井市初瀬 731-1

朱鳥元(686)年、僧道明上人が天武天皇のために銅板法華説相図(国宝)を西の岡に安置したことが始まりという。平安時代には貴族、江戸時代には徳川家の



崇敬を集め帰依を受けて栄えた。舞台造の本堂(国宝)は徳川家光による再建。寺宝類としては、本尊十一面観音像をはじめ、約千点にも及ぶ文化財を所蔵する。仁王門を抜き、本堂へと続く登廊(重要文化財)は399段に渡る石段になっており、天井には楕円形の灯笼が吊られている。登廊は4月下旬から5月上旬に見頃をむかえるボタンに彩られる。西国三十三所第8番札所観音霊場として有名。

公演番号 0524-3 0524-4 0525-3 0525-4

鹿島神社

香芝市下田西1-9-3

創建は第80代高倉天皇の承安2(1172)年、源義朝の家臣・鎌田政清の子・鎌田小次(二郎)政光が常陸国(現、茨城県)鹿島神宮の御分霊を勧請したのが始まり。古くから「鎮守の社」として広く親しまれ、祭神の武甕槌大神(たけみかづちのおおかみ)は雷神、刀剣の神、弓術の神、武神、軍神として知られる。



また本社には結鎮座(けいちんざ)と称する宮座があり、座衆の家名、先代と子孫の名を記録した「座衆帳」は、建久7(1196)年から慶応2(1866)年まで途切れることなく書き継がれている。座の組織や祭礼の内容等を記録した46点の文書からなる「鹿島神社結鎮座文書」は民間の宮座記録としては最も古く県の指定文化財。

公演番号 0523-3

壺阪寺

高市郡高取町壺阪3

正式には、南法華寺という。西国六番の札所で、創建は文武天皇大宝3(703)年、法相大徳弁基上人の開基で、正式名称を壺阪山南法華寺といい、長谷寺とともに古くから観音霊場として栄えた名刹である。36堂60余坊の大伽藍も、4回の火災で焼失し、現在は室町時代に建立された三重塔、礼堂が残る。共に、国の重要文化財。



本尊は千手観音、「日本感霊録」のなかにこの壺阪観音の信仰によって開眼されたという説話があり、これをもとに浄瑠璃「壺坂霊験記」が創作され、一躍有名になった。昭和58年に開眼された大観音立像は高さ20m、重さ1,200トンもあり天竺渡来である。また、平成19年には、総高15m(台座含)の天竺渡来大釈迦如来石像が開眼された。

公演番号 0529-4 0529-5

談山神社

桜井市多武峰 319

藤原鎌足の遺骨を摂津国阿威山からこの地に改葬し、鎌足の長男定慧が木造十三重塔(重要文化財)を建てたことに始まる。弟の藤原不比等が神殿を建立し、父の像を安置したとされる。かつては妙楽寺という寺と一体だったが、明治初めの神仏分離令後、神社だけが残った。社名は鎌足が中大兄皇子と蘇我入鹿を暗殺するために談合をした「談い山」からとったもの。多武峰の山中には楼門(重要文化財)、本殿(重要文化財)、権殿(重要文化財)をはじめとする朱塗りの華麗な社殿が建ち並ぶ。漆塗極彩色、三間社春日造の本殿には鎌足像が祀られており、日光東照宮の手本になったといわれている。現在の塔は室町再建で高さ17m。古塔の中では現存唯一の遺構である木造十三重は、鎌足の墓塔といわれている。紅葉の名所としても有名であるが、境内を桜が彩る春、新緑の季節、雪化粧が見事な冬と季節を問わず美しさを堪能することができる。



公演番号 0524-1 0524-2

當麻寺奥院

葛城市當麻 1263

聖徳太子の弟、麻呂子親王が西暦612年に創建した當麻寺は、創建当時の東西双塔(国宝)を日本で唯一残す寺として有名。また中將姫が蓮の糸で織り上げたという當麻曼陀羅(国宝)は極楽浄土の様子を伝え、二上山に沈みゆく夕日の風景と相まって、古代から信仰の聖地となっている。その當麻寺の塔頭奥院は浄土宗総本山知恩院の「奥之院」として建立された寺で、最初は往生院と呼ばれていた。知恩院第十二代誓阿晋観上人が知恩院のご本尊として安置されていた法然上人像(重文)を後光厳天皇の勅許を得て応安3(1370)年、当地に遷座して建立した寺で爾来、浄土宗の大和本山として、人々に念仏信仰を伝え、今日まで護持継承されてきた名刹。



公演番号 0525-5

天河大辨財天社

吉野郡天川村坪内 107

草創は飛鳥時代、役行者の大峯開山の際に葺王権現に先立って勧請され最高峰である弥山(みせん)の鎮守として祀られたのに始まる。弘法大師が高野山の開山に先立ち大峯山で修行した折、最大の行場が天河神社であったという。江戸時代までは琵琶山白飯寺と号し、本尊を弁才天(宇賀神王)としており、明治の廃仏毀釈で白飯寺は廃寺となり、本尊の弁才天は市杵嶋姫命(いちきしまひめのみこと)と改められた。市杵嶋姫命は宗像三女神の一人で芸能の神として知られている。今年は御造営30周年を迎え、通常非公開の弁財天像が今年に限り7月16日~22日までご開帳され、特に18日以降は本殿昇殿参拝を申し込むことができます。



公演番号 0525-6

室生寺

宇陀市室生 78

山岳信仰の霊場としては女性の参詣が許されていたことから、「女人高野」と呼ばれてきた寺。山号を一山(べんいちさん)と号し、「一」は「室」のうかんむりと「生」の最後の一画からという。



創建は奈良時代、天武天皇の発願により役小角が創建。その後、空海が真言宗の道場の一つとして再興したとも、のちの桓武天皇の病氣平癒を願った興福寺の僧賢憬(賢璟)が創建。現在の寺観を整えたのは賢憬の弟子修円とも諸説ある。宇陀川の支流室生川の北岸にある室生山の山麓から中腹に堂塔が散在し、弘法大師が一夜にして建立したと伝わる国宝の五重塔は屋外にあるものでは国内最小。シャクナゲ、紅葉の名所としても知られている。

公演番号 0523-1 0523-2

岡寺

高市郡明日香村岡 806

天智天皇2(633)年、義淵僧正が草壁皇子の岡宮をもらい受け創建。当初、伽藍は別の場所にあった。岡宮をもらい受けたことから岡寺と呼ばれているが、正式には龍蓋寺という。現在は山の腹に江戸時代の書院(重要文化財)や仁王門(重要文化財)、本堂が佇む。本尊は天平時代作で女性の厄除け観音として信仰を集めている如意輪観音坐像(重要文化財)。像高4.6mでわが国最大の塑像。西国三十三カ所観音霊場第7番札所でもある。四季折々の花が美しい。



公演番号 0522-1 0522-2

丹生川上神社下社

吉野郡下市町長谷 1-1

日本最古の水神を祀る神社。飛鳥時代に天武天皇により創建され、絵馬発祥の社。この社に昔、朝廷が「雨を祈り」黒馬を、「晴を祈り」白馬を献上されており、それが絵馬の起源にもつながるという。明神大社(神々の中で特に古来より靈験が著しいとされる神に対する国家が与えた称号)に列し、二十二社(国家の重大事、天変地異の時などに朝廷から特別の奉幣を受けた神社)に数えられ、明治には官幣(かんべい)大社となりどの時代にも最高位の社格を有した神社。丹生山山頂に鎮まる本殿まで続く木製七十五段の階(きざはし)は見る者を魅了。普段は下から見るだけだが、6月1日の例祭の日のみ、一般参拝者もこの階を登り山頂ご本殿を間近に参拝できる。また今年は修復中の階下から偶然見つかった石段が120年ぶりに見る事も出来る。



公演番号 0526-3